

◆特集 名ばかり春闘 失われた30年

非正規労働者による賃上げ運動

2023年に非正規春闘をスタートしました。首都圏青年ユニオン、総合サポートユニオン、東京東部労組、東ゼン労組と潮流が異なる4労組が、呼びかけ、28労組が実行委員会に参加しています。2024春闘では117社に要求し70社からの有額回答を得ました。一定の成果が上がる一方で、報道に反して非正規の賃上げの停滞を明らかにしました。首都圏青年ユニオンの場合、スシローの組合員が所属する店舗（東京、埼玉、徳島、宮城）平均で10・7%の時給引き上げを勝ち取る、ベトナムで学生アルバイト一人の要求によってアルバイトの平均5・41%の賃上げを勝ち取る、飲食中小企業「魚家」で100円の時給引き上げを勝ち取るなどの成果がありました。

非正規労働者が要求実現していく、画期的な運動と

非正規春闘2025の方針

首都圏青年ユニオン執行委員長

尾林 哲矢



言えます。

2025春闘の方針

2025春闘の統一要求は昨年に続き「一律10%以上の賃上げ」です。最低賃金の引き上げが続き、既存の春闘でも過去最高額の回答があったと報道されていますが、2024年9月の実質賃金が2カ月連続低下と物価高騰に追いつかない状況に対し、引き続きこの方針を掲げます。

また、「年収の壁を超える大幅賃上げ」という方針も新たに加わりました。年収の壁を意識して労働時間を抑制する労働者が増えていることで、賃上げが手取りの増加につながらないという問題を引き起こしています。労使交渉においても人手不足を招くとして賃上げを拒否する会社も少なくありません。

そして、「エッセンシャルワーカーの大幅賃上げ」ア、物流、公務非正規などの低賃金構造打開」も掲げています。エッセンシャルワーカーとして働く非正規労働者の多くは、低賃金に抑えられ、正社員との賃金格差も大きなものとなっています。しかし、こうした業種における春闘での賃上げ事例は見られません。社会を支える責任・公共性のある仕事に対して、正当な賃金を求める運動を新たに展開します。

個性豊かな個人加盟労組

この方針のもと、様々な地域、業種、領域別の組合が非正規春闘に取り組みます。

東京公務公共一般労働組合という東京の公務非正規労働者を1000人以上組織する労働組合があります。公務員は人事院勧告を受けて10月から11月頃にかけて各自治体で賃金が決定されますが、春闘期にあえて賃上げ交渉をすることで、各自治体と人事委員会への圧力をかけていきます。保育士、学童指導員、司書、学芸員、女性相談員などの職種が多いですが、いずれも公共性、専門性が高い仕事で正規と職務内容の差もないにもかかわらず、非正規だからと低い待遇に抑えられている実態も

発信していきます。

沖縄の「うまんちゅユニオン」も加わりました。今年6月に辺野古基地工事の12名のダンブ運転手がストライキを打ち、賃上げを勝ち取っています。沖縄の基幹産業である観光業に組合員がおり、非正規春闘に取り組み予定です。

業種別ユニオンでは「軽貨物ユニオン」が参加しました。主に委託ドライバーの労災加入等の支援をしています。ヤマト運輸に解雇されたパート労働者を組織化し、職場復帰を勝ち取った経緯があります。今度は賃上げ運動に取り組みます。

ストライキと地方非正規春闘

非正規春闘ではストライキを打ち、社会発信をすることも高く位置付けています。闘う非正規労働者の姿を可視化する意味と、ストを実施した産業や地域の労働組合への影響を与える意味もあります。スシローでは仙台と徳島県の店舗でストライキ行動を実施しましたが、それぞれ現地の労働組合に支援を要請したところ、多くの組合員が駆けつけてくれました。徳島では徳島労連が支援に応じてくれたのですが、その後スシローの事例をあげ

◆特集 名ばかり春闘 失われた30年



東ゼン労組の英会話教室「GABA」の

講師らによるストライキ行動 2024年3月13日

なされたこと)の一助となったと聞いています。また、争議支援を経て、会社への要求に動き出す組織もあると思います。

また、2024春闘では関西非正規春闘と、宮城非正規春闘のように、地域別での非正規春闘に取り組み、記者会見や労働相談募集を行いました。地域によっては労働組合の存在が知られていないなか、発信によって賃上げ要求をしたという非正規労働者を集めています。

2025春闘では地方別非正規春闘を増やし、また地方での行動とその支援体制づくりをすることで、全国的に非正規春闘を広げていきます。

闘う個人加盟ユニオンの運動のネットワークを強め、非正規労働者を業種・職種や地域ごとに組織していく実践を蓄積し、個人加盟ユニオンが労働運動全体において力をつけていく道筋をつくっていきたいと思います。

(おばやし たつや)



つつ最賃審議会への働きかけをしたことで、「徳島シヨック」(2024年の最賃引き上げの目安50円に対して、徳島県では84円引き上げが